

「私のチャペルの思い出」

美浪 節 (みなみたかし)1974年法学部法律学科卒

大学2年在学時の12月クリスマスシーズンに授業の合間にヘンデル作曲のメサイア(救世主)を誰も居ないチャペルにてレコードコンサートとで聴く事が出来ました。正に神様と対話出来るチャペル内でのこのクラシック音楽を聴くことにより明学大に在籍している意味も考えましたし、当時から大好きな西洋クラシック音楽の源流にも触れた思い出でした。演奏者はバーンスタイン指揮ニューヨークフィルオーケストラのレコードでした。その後に2年から4年生まで明学大のグリー混声合唱団による池宮指揮バッハ作曲クリスマスオラトリオの生コンサートに毎年クリスマスシーズンに会場は外部でしたがコンサートに出かける様になりました。そして幸いにも今年の12月にチャペル内でクリスマスオラトリオの明学大グリー混声合唱団卒業生の生コンサートに出かける事が出来ました。チャペル内でこの曲を聴く体験も初めて味わいました。いつも自宅のオーディオ装置でこの曲を聴きますが、また違った素晴らしいこの曲の体験もしました。ノンクリスチャンの私ですがクラシック音楽を通して音楽の素晴らしさと明学大を卒業した喜びと再度の意義深い深い味わい体験に感謝する次第です。これらの事柄は特に強く私のチャペルの思い出と今でも成っています。